

2021年1月1日（金）午前7時20分頃大阪 初日の出 まずは穏やかに新年を迎えました。



2021年1月1日（金）晴⇄曇

2021年の始まり、大阪市内は午前中よく晴れた。初日の出も家に見ながら見られた。寒いのは寒いですが、心配するほどでもなかった。まずは穏やかな新年幕開け。

－ 先達のエール －

午後からラジオを聴いていたら、「宇野千代」さんのメッセージが流れた。過去の公開収録の様、会場に向けて呼びかけていた。

いわく、みなさんの今みえている能力は氷山の一角、もっと奥深くにまだまだ才能が眠っている。それを見つけて、世のため人のために生きていきましょう。

このエールを引き受けて、自他ともに可能性を拓いていきましょうと、わたしもまた呼びかける2021年元日。

2021年1月3日(日)

大阪城公園

新年三が日はまずまず穏やかにすぎました。2日も3日も、運動がて自転車であら大阪城公園へ。観光客も少なく、地元の人たちが散歩やジョギングをしていて、なんとも静かな園内。

お目当ての「蠟梅」を梅林にたずね、自転車は入口において、「蠟梅」の居場所をめぐるのです。どこになにがあるか、とつくの昔に知っているのです。紅梅も少し咲き始めていました。





2021年1月3日(日) 晴⇄曇

三が日、大阪はなんとか穏やかにすぎた。まずまずの年明け、という感覚をもったが、全国的には大雪におそわれたところが多い。大山で独り暮らしの友人を想う。

－ 「蠟梅」に見せてもらうもの －

外出自粛、この三日間も特別な予定はなく、よく食べよく飲んだ分だけ少しは運動をしようと自転車を走らせた。少々の坂道もそのままかけあがり、足腰を鍛えた気になった。

元日も昨日も今日も大阪城公園の梅林へ行った。お目当ては「蠟梅」。例年ひと足先に梅林を訪れて、この香しい花に春をみせてもらう。例年と書いたが、さて何年になるだろう、「蠟梅」を知ってから。

…そう、そう、かれこれ20年。当時知り合った人に教えてもらった。その後はまるで自分が元から知っていたように、言ったり書いたりしている。他にも、「万作」、「秋海棠」、「山茱萸」など等。

この三日間、「蠟梅」をすぐ近くで見て、少しはなれては周りの木々をいっしょに眺め、空をみて…。なんのこともない、この時間、場面が贅沢に思えた。そうできている〈いま〉が尊いものを感じられた。

茶道の「日常の中に宇宙を感じる間」といえるかもしれない。「蠟梅」に見せてもらったのは春だけではなかった。2021年、なかなかイイ感じの幕開け。

2021年1月11日(月) 曇

今日は朝から曇り空、気温は低いが風はなく、凍える寒さからは逃れた。ニュースでは日本海側の大雪の被害を伝えている。大阪はラクさせてもらっている感。

－ 30年の関係に新たな質感 －

年末に旧知の人からメールがあった。年に一度ぐらいいは会っているが、共通の知り合いとの話で皆で久しぶりに会いませんか?となったとい

こういう時はすぐに日程を決めて実行しないと、そのうち話が立ち消えになる。こちらの都合のよい日時を伝えて、調整してもらい、新年早々に

おたがい率直にものを言う人たちばかりで、本当にたのしく、大いに盛り上がった集まりだったが、それ以上に、旧知のその人の話が、沁みた。

ごくごく自然に、胸の内を明かして、にこっと微笑み、次の話題に移るその様子が、なんとも神々しく感じられた。

葛藤と軋轢は容易に想像できる。そういった何もかもを乗り越えて、超然と構えるその姿の清々しさ。こちらの心も洗われるような感覚。

解散間際、つい出た言葉が、「ほんとうに、今日はよかった」。

何がよかったか…。いま考えててみると、過去30年の関係性を超えて何かまた新しい質感がそこに生れそうな予感がしたからではないか。

年明け早々、思いがけないシチュエーションに出会った。今日「えべっさん」の笹の福引で「一等賞」をもらった。なかなか良い幕開けである。

2021年1月12日(火)

大阪市内でも雪!



2021年1月14日(木) 晴れ

冬晴れ、大阪は今日一日よい天気のように。ふたたび「緊急事態宣言」発出、でもこの一年で社会的学習が進んだので、昨年のようなことはない。緊張感を維持し、予防対策を怠らず、日々をおくりましょう。

－ 日本文学全集300円 －

年末に恩師を形見の日本文学全集100巻を出張買取してもらった。長年もっていたが、いずれはなんとかしなければいけない。他で生かそうといくつかめぼしい先にあってみたが、あまりに古いので、叶わな

出張買取会社に電話で問い合わせたら、おおむね一冊5円とのこと。情けない気になったが、もう仕方ない。日時を予約して来てもらい、先方の査定に異議なしの誓約書にサインした。結果の通知は、なんと合計

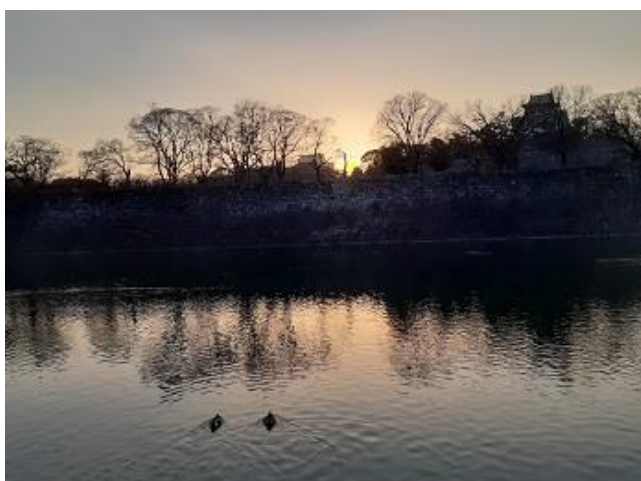
いくら少額でもこのお金を自分に使う気にはならない。銀行口座にも振り込んでほしくなかったが、買取規定でそれもできない。追って引き出し、御賽銭にでもしよう。恩師は無宗教だったから、それではダメか。

もうずいぶん昔、『宗教は持たないけど、敬意をはらう。だから、神社の前を通るとき、手は合わせないが、心の中で挨拶はする』。この一言がやけに記憶に残っている。

300円は、街なかのどこか寄付箱にいれるとしよう。

2021年1月14日(木)

大阪城公園夕景



2021年1月15日(金)

大阪城公園梅林夕景



2021年1月21日(木) 晴れ

昨日「大寒」に入った。日ものびてきた。気づかないうちに少しずつ日の入りが遅くなり、ある日、あっ、明るい！それが昨夕だった。次は「立春」、いよいよ春が立つ。

－ 忘れた頃に、「モンテーニュ」の微笑み －

このページでも紹介している「モンテーニュ」の言葉＝自分をこまかく観察すれば最良の教育材料になる。この言葉を知ってから20年になるが、折にふれ、本当にそうだなあと実感する。

典型的な一つは、気分。なぜか、気持ちがざわつくような時、その「なぜか」をじっくり考えてみる。すると、ほんの些細なことで、そうなっていることが多い。直前に誰かと話していた時の感覚が緒をひいているとか。

もう一つは、頭の巡りや心身の反応。思考作業よりも時間作業ばかりに追われていると、微妙に頭の働きを鈍くなっていることに気づく。会話の仕方、内容も表面的になっているように感じる。

一方、いい本を読んでいる時は読みながら自分が賢くなっていくように感じたりする。頭の中が浄化され、脳に新しい細胞が生まれ、全体にメンテナンスされているように思える。

こういった積み重ねがいずれ大きな糧になる。そんなこんな話をこれから世に出ようとする人によく話している。自分をこまかく観察する。実践する人、しない人。先達もわたしも実践を勧めます。

2021年1月24日(日) 雨

冬に三日連続で雨というのも珍しい。気温が少し高く、力仕事をすると(汗をかく。ようやく明日は晴れるようだが、その後はまたぐずつくとか。立春も近いし、季節の変わり目ということか。

— “…のつもり” がリアルになる絶妙 —

今日の午後、事務所の引越し作業を終えた。ほとんどの什器、備品は処分するので、作業は早く済んだ。最初の事務所時代から使っていたデスクやキャビネット、パーテーション、その他もろもろを明日一括処分して、北梅田ビルをおさらばし、新しい場で立春から業務を始める。

事務所移転は「essais特別2020年冬至」に書いたが、こういう流れになったことに、なんというか、思いがけず想定どおりに事が運んでいるようで、不思議な感じがした。人ごとのように、ほおおお…である。

昨日の『次の一步をふみだそう!未来志向の活動見直しセミナー』で受講者のみなさんに、時代の流れと自分の流れを読み、何をどうするか想定しておく、「自己成就の効果」が期待できると話した。

かなり前もっていついつ頃にはこうしようと心づもりしていたことが、いざその時期がきて、自分から動かなくても、そういう状況がめぐってくる。そういうことが何度かある。これはどういうことだろう。

考えると、自分では無意識のうちに、長い時間をかけて、そういう状況設定を自分自身の言動などをつくってきているのだろうというのが見立てだが、それにしても、絶妙である。

ここからどう流れていくか、つぶさに観察するとしよう。

2021年1月27日(水) 曇⇒晴?

昨日の朝、外へ出てびっくりした。なま暖かく、まるで春先のように。軽めのコートさえ、暑くてぬいだ。大阪は19度だったとか。今日も17度の予報。今年の立春は、立春らしい立春になりそう。

— すっきり、軽やか、晴ばれ —

—昨日旧事務所の不用品を一括で業者に引き取ってもらった。それなりの費用にはなったが、ものの30分ほどで作業は終わった。

見積りにきた人とは違う、アルバイトか若者4人が、きれいさっぱり、室内を空にしてくれた。

別な場所で時間をつぶすように言われ、戻ってきて、見た瞬間、本当に気持ちやすっきりした、晴ばれとした。『飛ぶ鳥跡を濁さず』。

18年いたが名残惜しい感じはない。数年前に大テナントが出ていってからは、雰囲気が変わっていたし。

それにしてもこの爽快感はなんだろう。季節が春にむかっていることもあるし、そのタイミングで新しい環境になるという状況に光がさすから

すっきり、軽やか、晴ばれ、春よ来い。

2021年1月31日(日) 晴

今日また暖かくなった。よく晴れた。新年も明日から2月、事務所の引越しがあったので、まだ1月だったか…という感じ。新しい場所での業務開始は3日立春だが、明日から助走、本格的に2021年の始まり。

－ あらためて、子どもの問題は大人の問題 －

「公立の小学校では板書中に話してはダメなんですよ」。教育サービスに携わる人からそう聞いて、どういうことか最初はピンとこなかった。

これからデジタル教材になるので、先生が板書をするのも無くなるかもしれないが、先生は板書しながら話してはダメで、板書なら板書だけをして、そして、なんと、皆が書き終わるのも待つことになっているそう。

「教育の平等」の観点からのようだが、脳力がどんどん育つ子ども時代に、そんな風にしてしまえば、情報経路となる五感に磨きがかからないんじゃないか…、そう思った。

「つい間違っ隣のクラスメートのペンを手に取ってしまって、ハッと気づいた時に持ち主の子に見られたら、そのペンを捨ててしまう子がいるんですよ」。これは昨日聞いた話。

これまた、どういうこと？ 小学校に出かけて子供たちに自他ともの人権について考えるワークショップをしている団体の人から教えてもらったのだが、うっかり手にしてしまったことを持ち主に言えないらしい。

あっ、ごめんゴメン、間違っ！、が言えず、自分のやったことを無かったことにしようとする、そこで、捨ててしまうのだとか。幼児期の親の<あやし>度合いと関係があるらしい。

あらためて、子どもの問題の大人の問題。大人にこそ情操教育が必要なんじゃないかと思って久しい。自分も含め、身近に接する子どもに関心を持ち、観察し、善悪をはっきり言動で示す、そう努めよう。